

## 第2回仙台城跡調査・整備委員会

- I. 開催日時 平成31年3月22日(金)14時00分～16時00分
- II. 開催場所 市役所上杉分庁舎2階第2会議室
- III. 出席者 (委員) 藤澤 敦・籠橋 俊光・佐浦 みどり・永井 康雄  
深澤 百合子  
北野 博司(欠席)・奥村 聡子(欠席)  
佐々木 貴弘(欠席)・鈴木 未来(欠席)
- (宮城県) 吉野 武(教育庁文化財課 技術補佐)
- (事務局) 【教育局】
- |           |        |
|-----------|--------|
| 生涯学習部長    | 佐藤 ゆうこ |
| 文化財課長     | 長島 栄一  |
| 仙台城史跡調査室長 | 渡部 紀   |
| 主査        | 鈴木 隆   |
| 主事        | 佐藤 恵理  |
| 主事        | 須貝 慎吾  |
| 文化財教諭     | 加藤 智仁  |
| 専門員       | 工藤 哲司  |
- 【建設局】
- |            |        |
|------------|--------|
| 公園課 主幹     | 鈴木 江美子 |
| 青葉山公園整備室主事 | 佐藤 詩織  |
- 【観光課】
- |         |       |
|---------|-------|
| 賑わい創出係長 | 三浦 貴之 |
|---------|-------|
- (報道機関) (1社)
- IV. 傍聴人 0名

※会議録の署名について委員長は籠橋委員を指名

## 【報 告】

### 1. 前回の委員会での意見について

---

資料1に基づき事務局より説明

#### (質疑応答)

委員長 整備基本計画をこれから見直していくわけだが見直しが終わるまでは前計画が生きているということになる。教育委員会所管以外の事業についても随時必要に応じて説明を受けて、意見を述べるということになる。

### 2. 史跡仙台城跡保存活用計画の策定について

---

事務局より説明

#### (質疑応答)

深澤委員 仙台市にとって仙台城というのは文化財の中心だと思う。計画が20年ということで、永遠に仙台城がある限り計画はつながっていき、終わることはないと思う。これは仙台城としての大きな枠組みがあってその枠組みの中で10年や20年と決めてきたのか。予算的な意味も含めて大きな枠が存在していると理解してよいか。

事務局 「保存活用計画」は、予算の裏付けがあるものではなく史跡の価値を確認し、保存・活用していくための基本的な考え方を示したものだ。我々が将来的に仙台城をどのように保存・活用したいのかを示したものとなっている。「保存活用計画」を基に「整備基本計画」では、具体的にいつまでにどのような施策をするかを示していく。「整備基本計画」の段階には予算的な裏付けをとったうえで表に出していきたい。

深澤委員 今までその大綱はなかったのか。

事務局 大綱というか項立てをしてというのは「整備基本構想」などと同じようなことを書いているため、無かったわけではない。(史跡の価値に関しては史跡の申請の際に国とのやり取りの中で書かれている。)文化庁から史跡の「保存活用計画」に明示する事項が示されているため全国的に同じようなスタイルになっている。

深澤委員 大綱は20年の枠組みで作られたが、仙台市の枠組みはそれを超えても続くのか。そういった思い入れがあるということか。

事務局 史跡の価値に関わる資料については今後も出てくると思う。平成31年1月に計画を作ったからそれで大丈夫というわけではない。途中で見直しを行い、時代に合わせて修正していく。史跡をどうしていくかの検討はずっと続くものだと思う。

委員長 国指定史跡だから仙台市が国に申請し、国にとって重要な遺跡として認められ

たわけで、通常解除されることはない。未来永劫伝えていくべき重要な史跡だ。

永井委員  
委員長

資料1に書いてある「保存活用計画」というのはこの冊子のことか。

今までの「整備基本構想」が今回の「保存活用計画」にあたるものだが、文化庁の方針で、広く大きく全体を捉えて計画をしっかりと作るべきだという方向に変わってきたため、「保存活用計画」を作った。名前が変わったからと言って中身が大きく変わるということではない。

### 3. 仙台城跡の調査成果について

資料2に基づき説明

#### (質疑応答)

委員長

平成30年11月22日に調査部会を行い、その結果を踏まえて報告してもらった。以前作られた「整備基本構想」とその翌年に作られた「整備基本計画」。これに基づいて造酒屋敷跡の調査を進めてきたという位置づけになる。

永井委員  
事務局

遺跡が荒れていて難しいと思うが、今後の発掘計画はどのようなものか。

造酒屋敷については、今年度で調査を終えた。来年度は、これまでの6度の調査の総括を行い、報告書として刊行する予定です。

委員長  
永井委員  
事務局

なかなか掘れるところがなくなってきたということであろう。

西側の足場の良くないところから柵の跡などが出てくることはないのか。

過去の調査で西側の岩盤と崖面となっていることが分かっており、そこを伝ってかなりの水が流れてきている。そのため西側は重機でも進むことができない状況のため調査は難しい。遺構としては建物跡や井戸跡などが想定されている場所であるが水の処理をしないと調査や整備は難しい。

佐浦委員

今まで造酒屋敷地内を中心に調査を行っていたが、今後の調査計画について聞きたい。

事務局

「整備基本計画」の56・57ページにて仙台城固有整備ゾーンAからFの地区分けを行った。57ページの中に、より具体的な施策が記されておりこれに準じて整備を行っているところである。12番に造酒屋敷遺構表示と書いてあるが、調査については概ね5年から6年くらいでというイメージでいたので、まず6年間の調査成果をもとにして整備を行えるのか、もう少し調査が必要なのかを判断し、これを委員会に相談したいと考えていた。

籠橋委員

登城路の確認については、今後継続的に調査をしていくなどの方向性は考えているのか。

事務局

登城路の整備は史跡・城郭にとって非常に重要な部分として捉えている。整備基本計画を改定する中でしっかりと位置付けて巽門から清水門にかけての登城路の調査についても検討し、計画に沿って進めていきたい。

深澤委員

資料2-1の現在舗装されている屋敷内を通る道路部分の以前の状況というの

は、過去の地図や絵図ではどのようなになっているのか。

事務局

城下絵図まで遡ることになるが、城下絵図ではあまり細かいところまでは分からない。大正時代に刊行された本に榎森家の建物配置図があるが、その図によると屋敷の中に庭があり、生垣が周囲に描かれている。

深澤委員

屋敷地の東側がこの辺まで広がるだろうという予測からラインは引いてあるのか。

事務局

巽門の西側に低い石垣があるが、その上面の平場が造酒屋敷東辺と考えている。

深澤委員

道路で削平されるまでは地形的に平らではなかったのではないか。

事務局

屋敷地だったときにはある程度平坦だったと思うが、道路整備した際に道路部分は削平され傾斜したと考えられる。

永井委員

正保の絵図からすると巽門と造酒屋敷との位置関係が今と異なるような気がする。城郭にも変遷があるかと思うが、出てきた遺構がどの時代のものかという整合性がとれるように整理していくべき。

委員長

それらが来年度の総括の大きな仕事となる。

事務局

来年度は発掘調査成果をまとめるだけではなく、榎森に関わる絵図や史料、榎森文書という古文書も含めて総合的に総括を行う。そのうえで委員のご意見・ご助言をいただきたい。

委員長

来年度に総括を報告してもらい、意見を述べさせてもらう。

#### 4. 仙台城跡に関わる活用事業について

観光課より説明(VR 事業)

##### (質疑応答)

永井委員

画像は出てくるが一般の方は建物が何かは分からない。仙台市以外から来た方は大橋などというのは分からない状況で見ることになると思う。説明は入ってくるのか。

観光課

その点については、工夫したいと思う。

深澤委員

わくわくするもので楽しみ。騎馬像付近でしかダウンロードできないのはどのような理由があるのか。

観光課

観光課という立場から仙台城跡という資源・史跡を多くの人に楽しんでもらいたいし、来てもらいたい。実際に来てもらい今と昔の城下の眺望を比べてもらうためこの場所にした。

深澤委員

スマートフォンを持っていない方のための対応案はあるのか。

観光課

伊達武将隊が案内する際に、タブレットで来訪者に見せるなどを考えている。

委員長

本丸は NPO 団体であるボランティアガイドがいる。彼らにタブレットを持たせ、案内させことは可能。どこがタブレットを用意するかという問題もあるが、

いい方法を検討していただきたい。この VR には季節設定などがあるのか。

観光課 現在のところ固定となっている。

委員長 今はいつ頃のものか。

観光課 樹木が常緑なので初夏から晩夏にかけてだ。季節の設定の予定はない。

深澤委員 春夏秋冬を作った方がよい。夏に来る人と冬に来る人では印象が異なる。冬に来た人に夏の情景を見せてもつまらない。

永井委員 これらの樹木は江戸時代に在った木なのか。

観光課 資料として残っているものについてはできる限り考証するが、記録が残っていないものについては、復元ではなくコンピューターのひとつのコンテンツということでバランスよくしたい。

永井委員 現代的な気がする。

深澤委員 奥に見える山は泉ヶ岳か。

観光課 そのようである

深澤委員 現在も見えるのか。

観光課 見えると思う。

永井委員 セツ森も本当は見えるのではないか。

事務局 それはセツ森に見える。

観光課 こういったところについても反映させている。

深澤委員 現在の景色にカバーできるとオーバーラップして比較しやすいのでは。

観光課 VR 内には現在の写真のパノラマも収録しているので端末の中でも現在と藩政時代を切り替えることができる。

佐浦委員 スポットを作って QR を読み取るという仕組みか。

観光課 騎馬像北東の説明版に QR コードがあり、スマートフォンでアクセスしてもらおう。通信料はかかるが無料のサービスとなる。

佐浦委員 会員登録したり、SNS で共有したりという考えではなく、その場で楽しむように限定させるということか。

観光課 サイト内に Twitter や Facebook などのアイコンを付け加えているので仙台の魅力を発信してもらいたい。

委員長 技術的な部分も含めていろいろと検討していただきたい。

籠橋委員 年代はいつ頃が想定されているのか。

観光課 基本的には史料の幅があり、何年という特定はなく、あくまで藩政時代ということにしている。幕末・江戸後期が基本となっている。

籠橋委員 後期まで絞り込んでいるのであればよいと思う。

事務局 本丸から見える景色については博物館にある明治元年の絵画を基本としている。幕末にあったであろうものという基準でやり取りをした。報道等で「政宗が見た風景」となると異なってくる。

籠橋委員 大橋や芭蕉の辻、大手門も同様にやられている。具体的にはどのようなものか。

観光課 基本的には再現時期を藩政時代としている。  
深澤委員 年代等を表示するほうがリアリティが出るし、比較しやすい  
観光課 QRを読み込んだ最初の画面にて場所の説明や年代について記載している。

資料3 仙台城における活用事業について事務局より説明。

(質疑応答)

委員長 仙台城を整備していくということはやがてこのような活用につながっていく。文化財課の所管ではないが、観光客が増えているということ踏まえてどう活用していくのかということで意見をいただきたい。

永井委員 仙台城の見学会というのは学校の校外学習ということでよいか。仙台出身の大学生も仙台城の場所を知らない。小学生や中学生が仙台城に行く機会を増やしていくことが若い人たちにも仙台の歴史に親しみを持ってもらえることにつながる。活用の機会を増やしてほしい。

事務局 我々も同じことを考えていた。学校に働きかけ文化財教諭による授業のメニューを作成している。徐々に増えてきているので一層増やしていきたい。

委員長 議事の5に進みます。

5. 平成31年度の事業予定について

資料4-1(平成31年度発掘調査・測量予定)に基づき事務局より説明

(質疑応答)

委員長 来年度調査・測量の予定箇所について意見・質問はあるか。巽門の調査は登城路の調査につながり、大きな意味では一連の調査となる。

永井委員 清水門跡は道路を造成する際に壊されているのか。

事務局 清水門の舗装されている部分については江戸時代の路面を大分削っているのではないかと思う。道路両面の法面に江戸時代の遺構が残っていると考えている。

永井委員 写真で見ると礎石が今にも落ちそうだ。

委員長 早く測量すべき。土塁も巽門周辺も大きく見れば一連の調査となる。石垣においては小規模なものも含めればまだまだ測量が終わっていない。そういったものを着実に進めていくべき。災害時の備えという位置づけになる。

資料4-2(青葉山公園整備事業)について公園課から説明



## 6. その他

---

- 事務局 来年度の予定だが、本委員会を年 2 回開催する予定である。第 3 回については、巽門周辺・土塁の調査成果がある程度見えてくる秋頃に調査部会の検討を得たあと開催する予定だ。本委員会の中での現地見学も併せて実施したい。第 4 回については、今回同様年度末に開催を予定している。
- 委員長 調査部会だけでなく、全体で現地を見る機会を作りたいということだ。可能なら是非委員全員に見ていただけると良い。
- 事務局 それでは最後にオブザーバーとして同席いただいた宮城県文化財課から一言いただきたい。
- 宮城県 今日の委員会は、とても盛りだくさんの内容で、活発な意見がなされた。前半のほうの(1)、(2)では過去の委員会、保存活用計画のその位置付け青葉山公園とのより分けの確認ができた。(3)仙台城の調査成果については、登城路やその付近の様子、二号建物の規模がつかめてきたのではないかとということだった。これからそれを整理し報告書を作っていく中で、どういった問題があり、このまま整備できるのか、それとももっと調査が必要なのか、そういったことをこの委員会でも諮っていければ良いのではないか。(4)活用では、ビジュアルなものが出てきて一番活発な話が出たように思う。今回のご指導を反映し活用をどんどん進めていただきたい。来年度の文化財事業に関しては、予算上で厳しいところも多々あるが、清水門北側石垣の測量も始めるということで、これを足掛かりにして少しずつ積み上げていければ良いのではないか。委員会としては、非常にいい形の委員会であったと思う。

**【閉会】**